

芝を張るボランティア

暑いなか芝張りがんばりました

高梁川河川敷グラウンド芝張りボランティア

ボランティアによる高梁川河川敷グラウンドの 芝張りが5月26日に行われ、昨年から行われてい た同グラウンドの芝生化が完了しました。

この日、総社市体育協会やスポーツ少年団、総社市サッカー協会、一般市民のボランティアなど約650人が参加。炎天下のなか集まった参加者は30 cm×37 cmの天然芝のシートを丁寧に並べ、約1万9000 m²に芝を張りました。

この事業により、業者に委託した部分も含め、合計約6万8000㎡のグラウンドが芝生に生まれ変わりました。ご協力いただいたボランティアは延べ1800人。皆さん、ありがとうございました。

平成の大修理を見る

宝福寺庫裏などの修理工事現場一般公開

平成22年から始めた宝福寺の庫裏などの保存修理工事が今年3月に完了し、修理工事現場が5月25日と26日の両日、完成後初めて一般公開されました。

宝福寺では平成の大修理を行っており、平成18年から20年までの仏殿の修理に続き、庫裏と玄関、食堂の修理が完了。建物内部の建具や床板の改修、壁の塗り替えなど新たに修復しました。また、建物間取りについても、この修理で新たに発見された痕跡などをもとに一部復元しました。

一般公開に訪れた人は完成間もない貴重な建物内部を興味深そうに見学していました。



庫裏を見学する人

○ミニフォト -

子どもに自然の楽しさを



子どもに自然を感じてもらおうと、自然観察会を6月1日に開催。市内の小学生以下の子どもとその保護者約20人が参加。子どもたちは一生懸命追い掛け回して捕まえたトンボをうれしそうに観察していました。

暑い季節に涼しげな憩いの場



市役所南交差点にある都市公園「まちかどの泉」の噴水が5月21日から稼動しています。これからいよいよ夏本番。この公園は、冷たい水の流れる音と水しぶきで、訪れる人を癒す、涼しい憩いの場となっています。

楽しく体を動かして健康づくり



総社市長杯グラウンド・ゴルフ 大会が6月7日に市スポーツセン ターで開かれました。市内の60歳 以上の男女約320人が参加。参加 者は和やかな雰囲気のなかで、お しゃべりを楽しみながらプレイを していました。

権利擁護センターの愛称は「しえん」

権利擁護センター開設記念シンポジウム

権利擁護センターが開設されたことを記念して、「みんなが安心して暮らせるために〜総社市における権利擁護を考える〜」と題したシンポジウムが6月2日、総合福祉センターで開催されました。

同センターの愛称が「しえん」に決定したことを発表。また、西田和弘岡山大学大学院法務研究科教授をコーディネーターに、弁護士の竹内俊一さん、司法書士の中村文彦さん、社会福祉士の横山奈緒枝さんらによるシンポジウムなどが行われ、約250人の参加者は権利擁護への理解を深めました。



amera まちの話題



日本語学習サポーター育成研修の様子



日本語教室で日本語の練習をする参加者

外国人にとって住みよいまちに

日本語学習サポーター育成研修・日本語教室

日本語の学習を必要とする外国人をサポートする方法を実践的に 学ぶ、日本語学習サポーター育成研修が6月2日にスタート。初回 は8人が、地域における外国人の状況などを学びました。今後、地 域の日本語教育に携わる専門家から外国人支援に関する基礎的知識 を学び、日本語学習サポーターとして実際に日本語教室に参加する なかで外国人支援の方法を実践的に習得していきます。

6月9日には市内に住む外国人が、地域社会で生活するために必要な日本語によるコミュニケーションの方法を学ぶ日本語教室が始まりました。8か国の外国人29人が参加。教室では、コミュニケーションの方法だけでなく、生活に必要な情報なども伝える場としての役割も担っており、地域社会から孤立しがちな外国人が交流する場となることを目指しています。

総社南高校ダンス部全国大会へ



全国高等学校ダンスドリル選手権大会の中国・四国大会が6月2日、総社南高校で開催されました。中・四国から12チームが参加。総社南高校は、ジャズスモール編成とプロップの2部門で全国大会への出場が決まりました。

くらしき作陽大学と連携交流を



くらしき作陽大学・総社市連携協力推進会議の第1回が5月22日、同大学で開催されました。同大学と市は平成23年に包括協定を締結。会議では、今後さまざまな分野で連携していく事業について意見交換されました。

日々の研究の成果を発表



岡山県立大学での活動や研究の成果を地域住民や企業に知ってもらおうと、OPUフォーラムが5月29日に同大学で開催されました。展示会場の体育館には同大学の研究紹介、企業や団体の活動紹介のブースが並びました。

Soja City Public Relations, 2013.7 | 34